

令和4年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議録

1 開催日時

令和4年7月21日（木）午前10時から午前11時40分

2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室

※WEB会議システム併用

3 出席者

(1) 委員 6名（2名欠席）

地域住民代表委員 小林委員（副部会長） 橋本委員 濱崎委員 町田委員  
専門委員 石田部会長（WEB） 長谷委員（WEB）

(2) 県関係

坂東局長 原田副局長 川口地域創生防災部長 露口保健福祉環境部長（WEB）  
多田農林水産部長 三好県土整備部長 玉岡政策調査幹

(3) 市町関係

阿南市 東企画政策課長（WEB） 那賀町 葛木総務課長  
牟岐町 西沢企画政策課長 美波町 岸本政策推進課長  
海陽町 中内まち・みらい課長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

令和3年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

(3) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要領
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会委員名簿
- ・ 令和4年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会配席図
- ・ 資料1 令和3年度南部地域課題解決プランの実施結果及び評価の概要（案）
- ・ 資料2 令和3年度南部地域課題解決プランの実施結果及び評価（案）
- ・ 参考資料 徳島県南部圏域振興計画（令和4年3月改訂版）

## 6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和4年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会を開会いたします。まず初めに坂東南部総合県民局長からごあいさつ申し上げます。

[坂東局長]

(あいさつ)

[司会]

なお、これからの議事進行につきましては当評価部会設置要領第5条第1項に基づき、部会長をお願いいたします。

[部会長]

それでは議事を進行して参ります。

本日の議題の令和3年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価案について、まず事務局から説明をお願いします。

[政策調査幹]

(資料1、2により説明)

[部会長]

ありがとうございました。ただ今、説明のありました、令和3年度南部圏域課題解決プランの実施結果および評価案につきまして、ご意見など、さらには南部圏域振興計画へのご提言も含めまして、幅広いご意見等を頂戴できればと思います。どなたさまからでも結構でございます。

[A委員]

資料2の32ページ、ユーチューブへの投稿本数について、お伺いしたいんですが、移住に携わっておりますと、盛んにSNSへの投稿や広告を求められるのですが、ユーチューブの指標では、再生回数は上がっているんですが、投稿本数がどうして少なかったのか、教えていただけたらと思います。

[地域創生防災部]

地域創生防災部でございます。よろしくお願いたします。只今、資料2の32ページのユーチューブチャンネル「みぎアゲTV」の動画投稿が目標に届かなかった理由を御質問をいただきました。理由につきましては、コロナの影響で、いわゆる文化施設が一部閉鎖され

たり、グルメリポートも計画していましたが、思ったように取材ができなかったことがあり、目標達成できなかったというところがございます。

今年度もコロナ禍ではありますが、いろいろ工夫を凝らしまして、目標を達成するよう動画を投稿したいと思います。それだけではなく、多くの人に動画を見て、四国の右下に来てもらえるよう、動画内容を検証しながら進めたいと考えております。

#### [A委員]

施設が閉まったりするのはわかるんですけど、内容を変更しながら投稿できると思います。特にユーチューブは、頻繁に投稿しないと再生回数が増えないんですよね。本当は目標の40回でも少ないぐらいと私は思っているので、色々な内容でどんどん投稿してもらいたいと思います。よろしくお願いします。

#### [地域創生防災部]

御提案ありがとうございます。動画は、不定期な投稿であると、なかなか見ていただけないというところがありますので、定期的に投稿し、次も見ていただくような仕掛けも考えたいと思います。

#### [B委員]

よろしくお願いいたします。資料1の7ページ、新規林業就業者数について、去年、お願いしたと思うのですが、年齢的に退職した方もおいでるし、途中で辞めた方もおいでるので、その数字を含めて、何か数字を示して欲しいのが1点

それと、プラン14ですが、県南林業の成長産業化の推進で、まだ指標が示されていない項目があります。なぜ、この集計が遅れるのか、理由をお伺いしたい。他は集計できているのにここだけ集計できていないのはなぜか。

資料1の10ページのプラン19について、指標に、集落ぐるみで鳥獣害対策の取り組むモデル集落数とあるんですけども、実施している地域はどこか、どういう取り組みを行っているのかということをお伺いしたいです。以上です。

#### [農林水産部]

まず1点目の新規就業者の数で、定着率の話だと思いますが、数値的には入れるのは可能でございます。これからは、記載したいと思います。定着率については、この南部圏域で、直近3カ年の数字が82%となっております。県全体で見ますと、81%ですので、南部の方が、1ポイントですけれども高いという現状となっております。

2点目のプラン14の指標が8月確定となっております、なぜ遅れているかという御質問をお伺いしました。県産材の生産量と主伐後の再造林面積について、現在集計中となっております。これらの数字につきましては、スマート林業プロジェクトの戦略目標、行動計画の指標

となっている数字であり、より精度の高いものとなるように取り組んでいるところでございます。このため、実績の確定にあたっては、県下の森林組合を始めとした林業事業者や、個人の森林所有者、市町村等の公的機関のほか、木材を消費する製材等の加工業者など、多岐にわたる関係者を対象にしまして、聞き取りによる調査を行っているところでございます。こうした実績の聞き取りや、集計値の確認、整合作業等に時間を要していることから、例年実績の確定が8月頃となっている状況でございます。今後とも、できるだけ早く集計に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞ御理解をいただきますようお願いいたします。

[農林水産部]

もう1点、鳥獣被害の関係で御質問いただきました。野生鳥獣による農作物の被害を未然に防止するために、防護・捕獲・集落改善等、集落が一体となって行う取組みを県で応援しているところでございます。そこで、被害を減少させる取組みで、モデル集落数を24と目標を掲げておりまして、令和3年実績におきまして、4集落、新たに設置いたしまして、累計で24集落になっているところでございます。具体的な地区につきましては、令和元年には、那賀町の大城地区、牟岐町の灘地区など4地区、令和2年におきましては阿南市の宮内地区、美波町の西山地区等の3地区、令和3年度におきましては阿南市の小野地区、美波町の深瀬地区などの4地区を新たに設置したところでございます。以上でございます。

[B委員]

もう1点、よろしく願いいたします。スマート林業は、何がスマートということをお伝えしようとしているか、お聞きしたいです。スマート林業に関して、単純に「お金かかるんだな」というのが第一印象でした。どんどんお金をかけていかなければ、林業はできないんですかね。人が少ないから、こういう機械が売れるということも書いてるんですけども、一方で、林業アカデミー来年は30人にするという予定なんですけれども、やはり若手が辞めるケースもあるんです。スマート林業にお金をかけてするのが、スマートかなって単純に私は思ったんです。そのスマート林業の意味を教えてください。

それと、色々な集計があつて大変だろうと思いますが、やはり目標があつたら、皆さんそれに向かってやるんじゃないかなと私は思います。ある会で、やる気のある事業者だったと思うんですけど。やる気のあるというんだけど、みんな、いや、私だってやる気があつてやっています。私も40年前から、徳島県がやらなかった、作業道をやり始めて、本当に未知への挑戦でした。だからそういう意味では、あるところでは、やる気がないからこちらに任すという、そういう言い方はどの分野でも私は抵抗を感じます。この間も、高性能林業機械を使わない女性の方がおいででした。そういうことも一生懸命やる気があつてやっているんですね。じゃあ、事業者さんとか森林組合さんだけがやる気があつて、それ以外はやる気がないと思われる言い回しだなと思いました。それぞれで一生懸命やっているのです。

[農林水産部]

まず、スマート林業とは、どういうものかということなんですが、スマート林業プロジェクトは、県の方では令和元年から進めておりまして、今年で最終年度の4年目となっているところです。林業では、近年目覚ましい進化を遂げておりますICT技術、AI技術等の最先端技術を活用して、森林作業の効率化や低コスト化を図っております。高性能林業機械は高額ですが、これも一つのスマート林業化ということで進めております。

さらに、森林調査、事前に調査をして、事業計画を立てる分野におきましては、森林のGISとか、最近では航空レーザー測量データの活用などにより、計画を効率的に作成するといったことを、県としましては、進めておるところでございます。

あと、ドローンを利用して森林の調査、上から撮影するとか、別の使い方で植林の際に苗木を人力で山の上まで運んでいたのをドローンで運ぶ、ということを進めているところがございます。

委員のお話のとおり、高性能林業機械というのは非常に高額でございまして、なかなか、一般の森林所有者の方が導入できるものではありませんけれども、徳島県の林業の経営形態は、私有林のうち所有規模が10ヘクタール以下が95%、ほとんどが小規模森林所有者でございます。そこだけでやっていくのだけではなかなか合理的にできないというので、集約化を行っております。それを担うのがやはり林業事業体ということでございます。国、県、市町村の補助もございまして、林業事業体で高性能林業機械を導入していただいて、効率的な林業を実施していくというのが現状でございます。一方で、一般の森林所有者が全然スマート化ができないかという、先ほど言いましたような、航空レーザー測量データにつきましては、県が積極的に進めておりまして、そのデータ収集につきましては、ほぼ全県で終わらせております。このデータを活用して、何ができるかといいますと、森林の微細な地形の状況を山に行かなくても把握できたり、森林の樹種、樹高、本数、材積というのも推計できるようになっております。ですので、これらのデータを森林所有者、林業事業体が行う造林や間伐、作業道開設の計画策定に繋げていけるようにと考えております。現在、航空レーザー測量データを含めた森林情報のオープンデータ化としまして、県のホームページ等で公表して、林業関係者や一般の方が利用できるようなことを進めております。

今年度につきましては、美馬市とつるぎ町で、オープンデータ化を進めておりまして、一般の森林所有者の方がそういったデータを利用できるようにして、効率的な事業計画の策定等に結びつけていただきたいと考えております。

あと、やる気がある事業体ということで質問がありました。国の施策で、意欲と能力のある事業体という、事業体と限定はしているんですけども、森林所有者の方がやる気がないという話ではなくて、国の方で令和元年に森林経営管理法というのができました。自分ではもう森林管理ができないというような方が市町村にその管理を委託する。その市町村がその管理の委託を受けて、その山の仕事を受けていただく事業体を、便宜上、「意欲と能力のある林業事業体」と名付けておりまして、県の方も同じようにやっております。県の名前は「ク

ール林業経営体」という名前にしているんですけども、市町村が集約した森林の管理を公募する。条件もあるんですけども、手を上げた林業事業体さんにつきましては、市町村が委託して、事業をやってもらう取組みをしております。決して森林所有者がやる気がないといった意味ではなくて、積極的に新しい施策を行っていただいている林業事業体を、そういう名前と呼んでいる状況でございます。以上でございます。

#### 〔農林水産部〕

スマート林業の関係で補足させていただきます。県におきましては、高性能林業機械や最新機械などの活用による効率的な森林施業に加えまして、古くから地域で継承されてきた林業技術を、次代に継承していくことが非常に重要であると認識をしているところでございます。このため、平成26年度から、林業のマイスター認定制度を創設しまして、地域で長年経験を積んできた林業技術者の方々を登録しまして、各事業体に派遣・指導することで、若手の林業事業者の技術力向上に取り組んでいるところでございます。今後もスマート林業技術によります、林業作業の効率化を図るとともに、先人から伝わってきました地域に適応した林業技術の継承についても、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。以上です。

#### 【B委員】

ありがとうございます。確か平成25年だったと思うんですけども、生産量が倍々増になったときに、私達も色々な説明を受けましたし、県の林業行政でも林業再生プロジェクトから色々移ってきまして、現在はスマート林業ということで。そのお話があった際に集約化して、私は難しいなと思ったんですね。1ヘクタールが何人もきたら、これは大変やなと思ったら、そこは違うところから攻めてきたというところがありまして、なるほどなという感がありました。それで、本当にどこかが集約化しようと思っても、どこかが、ちょっと私のところはというところも出てくるんですね。その辺がやっぱり集約化するときは何十ヘクタールも持っているところだったら、事業ってやりやすいと思うんですよ。それが何反とか1ヘクタールになってきたら大変だなという感もありました。そこは、おっしゃるとおり集約化してやってやったらいいなというのもあるんですけど、やる人も山持ちさんとの契約を結ぶのも、樹種も樹齢も違うし、大変だなという感があります。そのところで、やはり今おっしゃられたように、マイスターということで、そういう匠な技術を持っている方に登録してというけど、那賀町でも、そんな話をしてほしい。「登録はいいよ」ということであつたけれども、「その登録から全然話ないよ」という話も聞こえてきます。そんなこと言うたら失礼なんですけれども、山のルートを見るのは、かなり主人も息子も頑張っております。でも、はっきり言ってそれはお呼びでないんです。マイスターの登録するのを「主人はいらんのちゃうかな」って、私は思ったりしたんですけども。それは県のほうの方のお考えになったことなので、それは別にいいんですけど。確かこれ県レベルで、以前にあったように思う

んですけれどね。それから一度もなく。結構、主人はもうそのルートとかは作業道の関係で出かけているんですけれども。まあ、県とやり方が違うっていう感は拒めない。

とにかく、スマート林業、私は、その事業者さんが全部お金を持って、補助金も多分入るんだらうと思いますけれども、それ以前は、林家さんにも、少しでも多くお金を使いたいですねっていう話があったかと思うんですけれども、これだけ投入していたら、その話っていうのは無くなるのではないかなという危機感もあります。以上です。

#### 【農林水産部】

林業マイスター制度なんですけれども、県下では制度に登録しているマイスターというのが33名いらっしゃいます。そのマイスターの登録の仕方ですけども、林業の中でもそれぞれ、作業道とか、高性能林業機械の使い方とか、あと、架線集材の関係とか、色々な得意分野がございますので、それぞれの分野で素晴らしい技術を持つ方を登録しております。

利用の仕方なんですけども、制度上ですね、登録していただいて、林業事業者がこういう研修を作業員にしたいと要望があった時に、名簿の中からマイスターの方を選んでいくということです。それに対して県が助成金を出したりしているシステムでございますが、県が行ってくれとかというかたちは、とっておりませんので、ご理解いただきたいと思います。ありがとうございます。以上です。

#### 【C委員】

資料1の11ページのプラン21についてです。移住のことについて「要注視」となっております。横にプロがいるのにすいません、素人の目で話をさしてもらいます。私の地区には、「加茂谷元気な町づくり会」というのがあって、人口が少ないので、町を挙げて移住対策を行っています。子供さんが来てくれて、40人ぐらい増えております。

そのお世話をしている人が、私が県の委員になっていることを知っていて、私に「要望を言うてよ」と言われるんです。その中に、お世話している人がこんなにかしいとすごい要望が明確なのに、私が言わずに、何かコミュニケーションが図れたら、移住の人もスムーズにいけるのではないかなと、いつも思うんです。よく言われるのが、阿南の話で、見学に来てくれても、ホテルに泊まったりして、泊まる場所が無いということです。トレーラーハウスみたいなものは出来とんどですけどね。細かいお世話しよる人の要望と行政とが、うまくコミュニケーションを図ることができたら、もっと移住の人が増えるのではないかなと、日々思っております。

それと、深夜に「中村雅俊」さんが出ているテレビで「都会を出て暮らそうよBEYOND TOKYO」という番組があるんです。割と面白くて、町長が出てきて、移住した人取材するんですけど、全国各地毎週あるんで、積極的に他所の過疎地域も自分なりのPRをしている。このように、もっと変わったPRをしたらいいかなと思いました。それが一つ。

それと、プラン24の牟岐少年自然の家の体験がコロナでできてなかったっていうのを

聞きした点で、今年は小学5年生が日帰りで行きましたよね。いつも1泊2日ですが、「日帰りでも楽しかった」ということを小学生たちから直接聞いたので、これからコロナが増えていけば、学校でも2班に分けるとか、コロナの中でもそういう体験ができるようなものも考えたら、せっかくの思い出がボツになるより、コロナの中でもできる方法を考えるのも手ではないかなと思いました。

資料1の8ページのプラン12で、南部の女性ネットワークを活用した6次化商品開発数「◎」とあるんですけど、この商品がどんなものができたのかなと思いました。興味があるので、教えてもらいたいです。

あと、ページ6のプラン9について、DMVを導入して、テレビでもすごいニュースになっていて、コロナで難しいかも分かりませんが、どのようなプラスになっているのかというような、前向きなお話みたいなのを教えてください、以上です。

#### 【部会長】

はい。移住のこともありましたので、A委員からも何かございますか。

#### 【A委員】

ちょうど現状について、チャンスがあったら、お話ししようと思っていたのでお話しさせていただきます、まず、南部でいいましたら、町と市との大きさによって、行政の仕組みによって、ものすごく違うんですね。小さな役場だと、すぐそばに行政の人がいますけれど、阿南市ぐらいの大きさになると、ちょっと行政が遠いという感じがあります。それでしょっちゅうそばにくっついて、目の見えるところにいないから、お話し合いは十分にできてないんだなという温度差があります。ですから、加茂谷が美波町みたいに役場があったら、上手く機能すると思うんですけど、そこが軋轢があるのかなと思っています。

それから、移住者希望者の方から、宿泊のご希望もあるんですけども、それもまた、小さな町と市とは違っています。町は不動産屋さんがないんですが、市はある。それから宿泊に関しては、市は宿泊施設にホテル系がある。町の方はゲストハウスになっていて、それがすごいお試し住宅とかに移行しやすい。それで、阿南市さんの弁明みたいになりますけど、どこの地区にそれを置いていいか分からない、そういったことが難しいんじゃないかな、とは思っています。「加茂谷元気な町づくり会」の方達は、地域での力を付けていかれて、もう自前でそれをやっているんですよね。だから、行政にあてにせずやるしかないなとは思っています。

それから、資料2の11ページのプラン21について、県外からの移住者数が落ちていて、徳島県全体から見たら「南部すごく弱くなっているんじゃないか」と思われるんですけど、これの説明をさせていただきます。南部は、実はすごい先進地域で、頑張ってきましたので、空き家数もものすごく減っているんです。海陽町、牟岐町、美波町、那賀町も頑張ってきています。だけど、とにかく移住が人気で、調査してるんですけど、物件が埋まってし



まっているんですよ。すぐに住める物件なんかないんですね。「さあこれどうするのよ」って感じなんです。ちょっと空き家に対する行き詰まり感があるんですね。だって、移住者の希望がものすごい多いんです。

やっぱり今は山が人気なんですけど、これから南が人気になるんです。寒くなってくると、暖かい所が人気になるんです。これからぐっと伸びてくるんですけども、いらっしゃっていても紹介できる物件がまずないんです。

とにかく、物件が無いんですよ。今は、特にIT系で仕事の紹介の必要はないという方は多いんです。でも、このごろちょっと買い取りが増えてきました。チャンスはチャンスなんですけどね。そこで阻まれるのがまた登記、相続系になってきます。ですので、特区作るか、登記費用は行政がみてあげるとか、特別なことをしないと、これから移住者は伸びないんじゃないかとというのはあります。現状説明させていただきました。

### 【農林水産部】

農林水産部から少し補足させていただいてよろしいでしょうか。農林水産部の方から徳島回帰について少しお話をさせていただきます。今、東京への一極集中から地方創生の動きが加速をしてございまして、様々な情報が簡単に手に入るようになってきているような状況でございまして、生活の一部に農業を取り入れまして、そういった暮らしを検討されている方が今現在増えてきているようになってきているところでございまして。仕事に追われるだけではなく、豊かな自然の中におきまして、人間らしく、自分らしい生活を送りたいというライフスタイルを目指している方々、農業への就労や地方移住を求めている方々が、今後数年で、新型コロナウイルスの感染拡大も相交えまして、数年前より増えてきているように感じているところでございまして。こうした流れを受けまして、国においてもデジタル田園都市国家構想というのを打ち出されてございまして、農業と他の仕事を組み合わせをしまして、半農半Xの推進に意欲をみせてるところでございまして。ですので、本県におきましても、おそらく都会からの関心が高まっているこの機会に新しい徳島回帰の加速ということで、新しい人の流れをつくっていく取組みを進めているところでございまして。その中におきまして地域と一体となった取組みということで、先ほどお話がありました「加茂谷の元気な町づくり会」であったり、あるいは「海部きゅうり塾」の皆様方との連携だったりということで、力を合わせて、今、取り組んでいるところでございまして。特に農業支援センターを中心となって取り組んでございまして、今いただいた意見につきましては、阿南の支援センターの方にお通しをさせていただきまして、しっかり取り組んでいきたいというふうに考えているところでございまして。

それともう一点、6次化商品の関係で南部女性ネットワークを活用した商品づくりということで御質問いただきました。南部地域におきまして、農業や加工に取り組んでいる女性の方々を中心に加工事業者の方々等、異業種の方とのネットワークを構築しまして、6次産業化の取組みを進めるということで、毎年3商品をつくっていく取組みをしているところでございまして。

ございます。海部郡におきましては、実生ゆず、もち麦などを使った商品が、新たにできてございまして、商品数が増えておりますので、数値目標を上方修正しまして、令和2年度までに6だったものを8に、令和3年に8だったものを11に、令和4年10だったものを14にということで、今増やしていつているところでございます。具体的にどんな商品ができたのかというお話でございますけれども、令和3年度におきますと、牟岐の農業を守る会の方々が徳島文理大学と連携をいたしまして、もち麦を使用した生パスタを開発したり、JAかいふの牟岐女性部の方々がOEMを活用しまして、実生ゆずともち麦を使った「母あちゃんマヨ」、「ポンジュレゆう」といった商品を3商品を出すことになったところでございます。以上でございます。

#### 【地域創生防災部】

色々とお話をさせていただきまして、ありがとうございました。それ以外のところで私の方から2つお答えをさせていただこうと思います。まず1点、PRの部分で自分なりの発信をということで、お話をいただきました。南部総合県民局といたしましても、南部へ移住してきた方の御意見を色々な人に知っていただくようオンラインサロンで定期的に発信をさせていただいております。また、移住フェア等も色々とお話させていただいております。ただ、こうした取組みは、色々な所でもされており、どう他地域と差別化を図るかというところは、確かに課題としてはあると思います。そうした中でも、関係者の方と十分意見交換をして、発信の仕方も少しずつでも変更して、より良いものを目指していきたいと考えてございます。

それと、DMVでございますけれども、DMVは今年の12月に世界初の営業運転が開始されたということでございます。その後、年明けの段階で、コロナの影響で団体客のキャンセルもあり、客数の伸びないということがございました。けれども、ゴールデンウィークにつきましては、昨年度よりもかなり客数の伸びがあったということです。DMVの運行を契機とし、DMVだけではなく他にもいろいろな地域資源がありますので、そこに来ていただく。そのために、今後、高知県さんと一緒になって色々打ち出すことを進めていきたいと考えてございます。よろしく申し上げます。

#### 【C委員】

南部の女性ネットワークを活用した6次化商品の件なんですが、この計画は南部の計画ですね。南部は阿南も那賀町も入っているので、次は私達阿南も参加できたら、元気なJA婦人部の方はたくさんいるので。海部郡の次は、阿南、那賀町もやって欲しいと思います。以上です。

## 【D委員】

私からは、きゅうりタウン構想のお話をさせていただきたいと思います。2015年6月に、きゅうりタウン構想を掲げまして、「海部次世代園芸産地創生推進協議会」という協議会を設置をさせていただきました。県、農業支援センター、JAかいふ、また海部郡3町加わっていただきまして、協議会を発足させていただきました。それから7年目に入っておりますのでございますけれども、その当時は5.6ヘクタールのきゅうりの栽培が、海陽町を中心に行われていました。そして、10年後には、その倍の10ヘクタールにしようじゃないかという目標を掲げて、今7年目に入っておりますけれども、なかなか10ヘクタールにするには大変苦勞をしております。

というのも、高齢者で離農をする方が多くいます。きゅうり栽培は過酷な農業でございますので、体を痛めて辞める高齢者もいるのが現状でございます。今は5.4～5.5ヘクタールの栽培面積でございます。

また、この10月から29歳の御主人と奥さんが美波町でキュウリ栽培をするということに入塾を希望しております。牟岐町では、御夫婦がこの秋から経営を開始するようになっております。

ぼつぼつ増えてきておるんですが、コロナが発生いたしまして、約2年間、12月になったら、3年になりますけれども、本当に活動ができていないのが今の現状でございます。これから活動できるかなと思っていたら、この第7波ということでございます。「行きたい」という希望の電話がちょくちょく掛かってくるんですけれども、「ちょっと待っててくださいね」とお断りするのが心苦しく思っております。

そして、国、県の方で、この秋から収穫ロボットの取組みもございまして、トマトでは収穫ロボットがあるんですけれども、キュウリに関しましては、初めてということなんです。大きな支援を国、県からいただきまして、実証ハウスで、この秋以降ぐらいから取り組んで、収穫をしたりとか、色々な作業をできるようなロボットを開発するというところでございます。また皆様方、お時間がございましたら、ぜひハウスの方にお越しいただいて、どういうものか見学をしていただいたらと思っております。それに対しまして、県、農業支援センターにも、多大なお世話になると思っておりますけれども、その節はどうかよろしくお願い申し上げます。

また、今年は、まだ養液栽培はやっておるんですけれども、土耕関係の栽培は、この6月で終わりました。そして、今年は大体1,100トン、今までで出荷をしております。阪神方面で神戸と大阪の市場へ出荷をしております。大体金額的には、2億7,8千万円の売り上げがあるんですけれども、単価が去年、今年も安うございます。肥料、資材等、色々なものが高騰をしておるんですけれども、農産物の価格は低迷しております。今年は、平均のキロあたり267円という数字が出ております。なかなか267円ぐらいでは、苦しいです。油もかなり上がっております。最低でも、キロあたり300円ぐらいは欲しいです。4、5年前ぐらいは、きゅうりの値はよかったんですけれども、ここ2年続けてとか、そういった

現状で、農家は本当に苦勞をしております。

養液栽培は、まだこの暑い中ではございますけれども、まだ収穫をしております。また、また覗きに来ていただいたらと思っております。

そして、今、牟岐のJA女性部がもち麦を栽培して、加工し、味噌等を製造しておりますが、今、もち麦の作付け面積が少のうございます。2町1反ぐらいでございます。反当たり300キロぐらいの収穫数量があるということ聞いております。

また、実生ゆずについては、上勝町の「阪東食品」さんにお世話になりまして、またフランスへ3トンくらい輸出をお願いしております。

そういうことで、地域の方々、そしてまた県、農業支援センターに本当にお世話になって、これからも頑張っていこうと思っておりますので、また、よろしく願い申し上げます。私からは以上です。

#### 【農林水産部】

農林水産部でございます。きゅうりタウンの関係で、きゅうり塾の方に入塾した方27人中、今の第6期生の方3名を除くと、24名中の17名の方が就農したということで、大変高い就農率だと思います。本当に努力に感謝しているところでございますし、農業支援センターも一体となりまして、御支援をしたいというふうに思っているところでございます。

また、お話がありました収穫ロボットですが、これはお話しのとおりです。課題はいっぱいあると思うんですが、何とかチャレンジしてこそ意味があるかなと思います。3ヶ年で3億円という予定で動いております。中身を言いますと、県とロボットアームを持っている国内自動機械メーカー、それとAI開発会社が組んで、JAかいふさんを実証フィールドとして、収穫ロボットを造って、それを徳島モデルとして全国の方に発信していきたいと考えてございますので、ぜひ一緒に一体となって取り組んでいきたいと思っております。

実生ゆずについてもおっしゃるとおりでして、今「阪東食品」さんが中心となって、ちょうど今フランスの方に行っている最中と思うんですね。木頭ゆずと一体となりまして、ぜひ徳島からパリへということで、パリで何とかブランドすることによって、値段を上げられるような取組みに繋げて行きたいと思っておりますので、是非一緒になって頑張っていきたいと思っております。

#### 【E委員】

皆さんの色々な元気になる話をお伺いさせていただいて、ありがとうございます。私からも少し発言させていただきたいと思っております。

高齢の方が増えおり、就農を諦めたりされているという方のお話をお伺いしました。今後、高齢者お1人でお暮しになる方が増えてくるし、お子さんがいない方とか、親戚が遠くにしかない方とかも増えてくると思います。そういう介護する側の人も少なくなってくる。現

在も少ないと思うんですが、私も行政の一員なので、それについて考えて、もっと県南が元気になっていくようにしたいと思っております。

また、私は、児童虐待や女性支援に仕事で関わらせていただいている関係で、資料2の21ページからにもありますが、こういう支援について、また考えていけたらなと思いました。

あと、今回、観光の話とかはやっぱりメインかなと思います。先ほどのDMVの話は、私も興味深く聞かせていただきました。美しい自然とか、おいしい食べ物っていうのは、色々なところの観光の話に出てくる。県南ならではのものっていうのは、大事かなと思っております。そうしましたら、DMVであるとか、あと私が好きなのは、「自然が美しい中に1両とか2両のディーゼルが走ってる」っていうことです。これは観光になるんじゃないのかなといつも思っております。

あとは、徳島市の方の阿波踊りについて、県南の方でも、阿波踊りをもっと有名にしていけたらなと思いました。皆さんのお話を聞くばかりで、特にこれといった珍しい意見とかなくて申しわけないんですけど、いろいろ勉強させてもらっています。ありがとうございます。以上です。

#### 【部会長】

ありがとうございます。皆さんに御意見はいただきましたが、まだ何かございましたらお願いいたします。

#### 【B委員】

環境についてですが、去年6月のG7サミットにおいて、国家戦略で陸地を30%、海域を30%守っていこうという動きがありました。その中の発起人に徳島県もなってるんですね。ですので、経済性も追求しながら、環境のことも考えていかないといけない。線状降水帯の発生とか、全国どこで何があってもおかしくないという状態なので、やはり環境面を考えなければいけないと思います。以上です。

#### 【部会長】

先ほど保健福祉環境部長さん、画面を見ておりましたら、ご説明があるようでしたので、お願いいたします。

#### 【保健福祉環境部】

先程、E委員さんに何点かお話しいただいた中で、介護人材のお話があったかと思えます。南部圏域におきましては、医療・介護の人材確保は、非常に重大な課題だと考えておるところでございます。南部総合県民局におきましては、この施策にも書いておりますが、特に未来を担う高校生の方、あるいは看護学生の方を対象に医療・介護の現場を知ってもらう。ま

た、現場で活躍されている方々の生の声を聞いていただくということで、将来の人材確保に繋げていく。そういう機会を設けているところでございますので、地域包括ケアシステムを担う市町村の皆様と連携して取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

また、DV、児童虐待への対応についても、E委員さんに日頃から大変お世話になっております。こども女性相談センターといたしましても、阿南市と連携して取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。以上でございます。

#### 【地域創生防災部】

地域創生防災部でございます。先ほどのDMVに関するお話いただきました。先ほども少しお話させていただいたんですけれども、E委員さんがおっしゃるように、当然DMVのみならず、南部圏域は、色々な魅力ある観光資源、食べ物等がございます。先程もお話をさせていただきましたが、徳島県の方は、四国の右下の南部圏域、それから、高知県さんの方は、東陽町を中心とした東部で強く連携して、それぞれの資源を深掘りをしていきながら、打ち出していきたいと考えてございます。以上でございます。

#### 【E委員】

色々質問に答えていただきまして、ありがとうございます。やっぱり住んでいる人も、これから移住なんかで住んでくれる人も、みんながこの県南を大好きになってもらいたいの、その為には、どうしても行政の力だけでは無理ということもあると思います。民間の方とか、色々な人の力で、きれい事にはなってしまうんですけれども、力を合わせないと、上手くいかないことが多いなということを感じています。この場で色々なお話を聞いてよかったと思います。ありがとうございます。以上です。

#### 【部会長】

他はいかがででしょうか、特によろしいでしょうか。

ご意見を色々頂きましたが、評価につきましては、事務局案で、そのままよろしいでしょうか。

(異議なし)

#### 【部会長】

では、評価は、事務局案のとおりとさせていただきます。委員の皆さんから、色々なご意見、ご質問などの御発言ありがとうございます。南部総合県民局におかれましては、委員の皆さんからいただいたご意見、そしてご提言を、徳島県南部圏域振興計画をはじめとして、南部総合県民局の施策・事業にできる限り反映していただくようお願いいたします。

す。

なお、最後に当部会の会議録に関しまして、お伺いしたいことがございますので、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】**

会議前にご説明しましたとおり、本日の計画推進評価部会の会議録につきましては、部会長と協議の上、公表させていきたいと考えております。

**【部会長】**

以上、事務局から説明がありましたけれども、本日の会議録の公表内容につきましては、部会長である私にご一任いただくということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

**【部会長】**

ありがとうございます。それでは、異議も無いようでございますので、部会長の判断により、公表するというにさせていただきます。それでは、事務局へ進行をお返しいたします。

**【事務局】**

それでは、ありがとうございます。ここで局長から一言お礼を申し上げます。

**【坂東局長】**

本日は、活発なご意見、ご提言、大変ありがとうございました。石田部会長を始め、委員の皆様方にいただきました提言、そしてご意見につきましては、我々も、真摯に対応させていただきたいと思っております。特にコロナに関してですね。コロナ禍で出来なかったものについては、先ほどA委員さんからもお話がありましたように、アプローチの仕方を変えていくというのは、当然のことであると思っております。長年の課題というものの中にはございますし、コロナでぶつかっている壁というものもございます。そうしたものについては、従来のやり方だけでなく、それぞれ新しいやり方を工夫することは、当然のことでございますので、私どもも、そうしたことについて職員一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

**【事務局】**

それでは以上をもちまして「徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会」を閉会させていただきます。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございました。

